

淀川水系流域委員会殿

平成25年2月12日

「関西のダムと水道を考える会」

(代表) 野村東洋夫

「淀川水系河川整備計画の変更」が必要な事項 (その1)

= (川上ダム) 長寿命化容量の削除

私達はこの10年余り、関西の新規ダム計画について、主として水道利水の観点からチェックしてきた市民グループです。ご承知の通り、今年1月18日、25日に開催された貴委員会での河川管理者の説明では、今後「淀川水系河川整備計画」の変更を行う必要が生じた場合、変更原案に対して意見を述べる「学識経験者」として貴委員会が選定されました。私達の見るところ、川上ダムなど複数のダム計画について、明らかに変更を行う必要があると考えられる事項がありますので、それらを順次ご説明したいと思います。今回はその第1弾で、川上ダムの「長寿命化容量」です。

(川上ダム) 長寿命化容量は「活用可能な利水容量」で100%代替可能

昨年12月13日に開催された「川上ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場(第4回幹事会)」において河川管理者から次の事実が発表されました。(→添付「資料1」)

「活用可能な利水容量」(=水道利水以外の用途に転用可能なダム湖の利水容量)

高山ダム	7,600,000m <sup>3</sup>
青連寺ダム	6,700,000m <sup>3</sup>
比奈知ダム	1,400,000m <sup>3</sup>
小計	<u>15,700,000m<sup>3</sup></u>
日吉ダム	3,200,000m <sup>3</sup>
計	<u>18,900,000m<sup>3</sup></u>

この発表資料では利水団体別の内訳が不明ですので、私達が近畿地方整備局から得た回答をもとに作った一覧表が下記のものであります。

	(大阪広域水道企業団)	(大阪市)	(京都府)	(尼崎市)	(計)
高山ダム	3,320,000m <sup>3</sup>	4,093,000m <sup>3</sup>	—	186,000m <sup>3</sup>	7,599,000m <sup>3</sup>
青蓮寺ダム	2,918,000	3,600,000	—	163,000	6,681,000
比奈知ダム	—	—	1,400,000	—	1,400,000
日吉ダム	2,726,000	—	493,000	—	3,219,000
計	8,964,000	7,693,000	1,893,000	349,000	18,899,000

つまり、大阪広域水道企業団（＝旧・大阪府水道部）や大阪市などが大幅な水余り状態にあって水利権を余らせているため、上記の4ダムについてはその利水容量を治水・長寿命化など他の用途に転用（活用）して貰っても構わないと国に回答した訳です。（有償・無償の本格協議はこれからと思われまます）

しかしご覧の通り、その集計結果は約 1890 万 m<sup>3</sup> という大きなものであるため、この数字が川上ダム計画に与える影響は、治水・利水・長寿命化などに大きく及ぶと思われまます、中でも「長寿命化」は100%、この「活用可能な利水容量」で代替することが可能となります。

この点について以下に詳述します。

そもそも全国的にも珍しい「長寿命化容量」なるものが川上ダムに設けられた理由ですが、「淀川水系河川整備計画」（p.77）には次のように書かれています。

“川上ダムでは木津川上流のダム群（高山ダム、青連寺ダム、布目ダム、比奈知ダム）におけるライフサイクルコスト低減の視点から、既存ダムの水位を低下して効率的な堆砂除去を実施するための代替容量として、必要な容量を川上ダムに確保する”

これをもう少し詳しく説明しますと、

- 1) 上記4ダム（高山・青連寺・布目・比奈知）には当初の計画段階から100年分の堆砂容量が設けられていますが、排砂目的の「副ダム」が設置されている布目ダムを除く3つのダムでは計画を上回る堆砂が進行しており、このまま放置すると100年を待たずして堆砂量が計画量を上回ってしまいます。ダムの「長寿命化」を図るためには、ダム湖に堆積した土砂を早い段階から除去（排砂）することが必要となります。
- 2) 排砂にはダム湖に浚渫船を浮かべて浚渫する方法と、ダム湖の水位を人為的に下げて湖底を露出させ、ここに重機を乗り入れて掘削を行う方法（陸上掘削）とがありますが、河川管理者の説明によれば、費用的には陸上掘削の方が大幅に安価なため、たとえそのために川上ダムの規模を大きくし事業費が増大しても、陸上掘削の方が有利だとしています。
- 3) ここで問題は、本来は下流の水道利水や農業利水のためにダム湖に貯留すべき水を人為的に貯めない訳ですから、代わりに他のダムから供給してやる必要があります、川上ダム長寿命化容量 830 万 m<sup>3</sup>はそのためのものとしています。

- 4) 念のためここで水道利水や農業利水の取水点の位置を確認しておきますと、高山ダムの場合は、このダムに由来する水利権は全て木津川本川と下流の淀川に取水点がありますので、川上ダムでの代替供給に位置的な問題はありませんが、青連寺ダム・比奈知ダムの場合は若干事情が異なり、木津川本川と淀川の他に、支川の名張川、青連寺川にも取水点を持っています。
- 5) つまり、川上ダムで全ての取水点をカバーすることは出来ず、位置的に可能なのは木津川本川（正確には名張川との合流点「大河原地点」から下流部分）と淀川での取水だけだということですが、しかし別添地図（→「資料2」）から分かりますように、これらの位置にある取水点に対しては高山ダム・青連寺ダム・比奈知ダムからでも供給可能です。しかも前述のようにこれら3ダムの「活用可能な利水容量」は1570万 m<sup>3</sup>もあり、川上ダムに予定されている長寿命化容量830万 m<sup>3</sup>を大きく上回りますから、これを利用して代替供給することは充分可能です。

以上のことから（川上ダム）長寿命化容量は、位置的にも容量的にも高山・青連寺・比奈知3ダムの「活用可能な利水容量」で完全に代替可能です。しかも既存施設を有効活用するのですから新たな施設の建設は不要であり、費用的にも安上がりと考えられます。

川上ダムについての淀川水系河川整備計画の変更は必須です。

(以上)

# ◆活用可能な利水容量について

(資料 1)

## ◆構成員からのご意見【第3回幹事会】

『(水需要の情勢の変化は)今後の「他用途ダム容量の買い上げ」の検討に影響することから、これらが反映されるよう早期に利水者に水需要の動向をしっかりと確認し、検討を進めていただきたい。』



関係利水者への意見照会を実施。(H24.11.14～12.4 回答)

## 【意見照会の内容】

●川上ダムの目的である治水・新規利水・流水の正常な機能の維持(既設ダムの堆砂除去のための代替補給を含む)の各対策案の検討において、現状で活用することができる水源の有無。

## 【利水者からの回答】

●利水者からの回答を踏まえ、各ダムの活用可能な利水容量は以下のとおりである。

(単位: 千m<sup>3</sup>)

対象ダム	高山ダム	青蓮寺ダム	比奈知ダム	日吉ダム
[水道用利水容量]	[9,100]	[8,900]	[7,000]	[6,400]
活用可能な利水容量	7,600	6,700	1,400	3,200

※ 活用可能な利水容量については、利水者から回答のあった水量に基づき、各ダムの水道用水容量を開発水利用比で按分している。

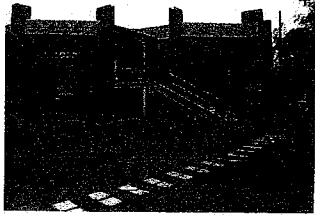
※ 活用可能な水源が「有り」と回答のあった利水者のうち、一利水者については定量化できない旨の回答があったため、当該利水者の対象ダムにおける開発水利用については、全量活用できるものと仮定している。



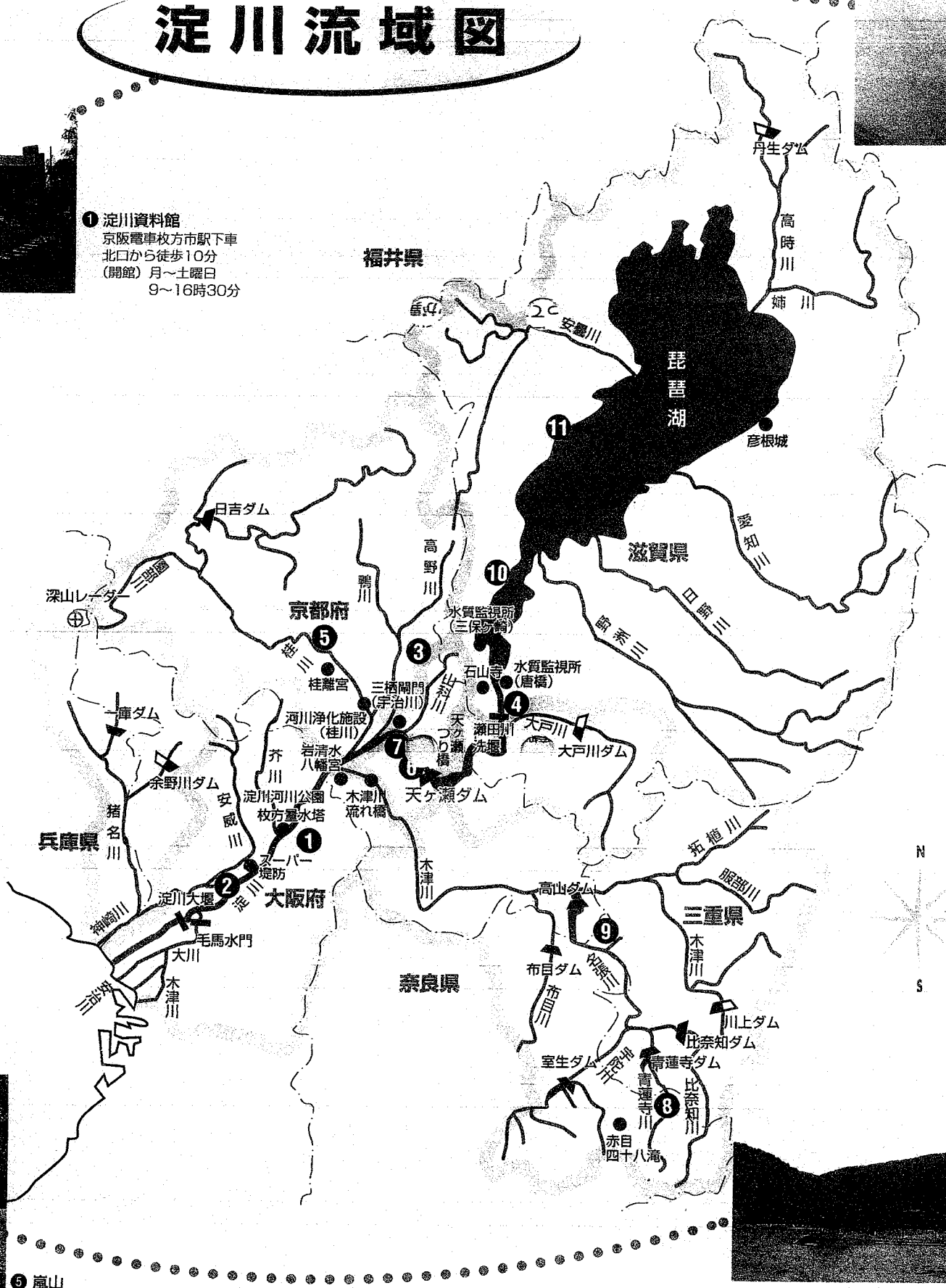
上記の活用可能な利水容量を用いて、各対策案の検討を行う。

# 淀川流域図

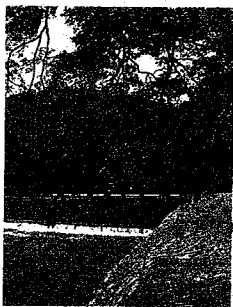
① 淀川資料館  
 京阪電車枚方市駅下車  
 北口から徒歩10分  
 (開館) 月～土曜日  
 9～16時30分



わんど



り京阪バス20分  
 4寺駅より京阪バス10分  
 先塚下車徒歩5分  
 7時  
 曜日



⑤ 嵐山



⑥